

	小林秀雄著『本居宣長』:各章主題の「関係論」的纏め
十四章	①『源氏』[めでたき器物(物:場c')]②『めでたさの秘密』(物:場c')③『其時のならひ』(物:場c')④作家(式部。物:場c')⇒からの関係:⑦が何を置いても語りたかつたのは①の②。即ち「⑤:①の表現(とは、③を自己の内的表現の素材と化した努力)の充實と完璧との力。及び③を吾が物とした④の制作の自由である」(D1の至大化)⇒「⑥:宣長の下心」(⑤的概念F)⇒E:⑥を「これら評釋に讀む事が可能となる」(⑥への距離獲得:Eの至大化)⇒⑦宣長(△粹):①②への適應正常。
十五章	
十六章	

